

2005年4月南開大学滞在記

4月18日

6時半に出発。チェックインするが、機内持ちこみは5kg以内とのことで、軽いバッグも預ける。ラウンジでコーヒーを飲む。出国口が大混雑なので、早めに手続きをする。10:55発、中国東方航空MU272便に搭乗。北京経由西安行きはほぼ満席。日本人ツアー客も多く、反日デモの影響は見うけられない。昼食は、すきやきご飯、盛りそば、ぜんまい煮物、巻き寿司、栗饅頭。2:30、北京空港到着。事務室の周志国さんが出迎えてくれる。

高速道路は、通行量が増えている。一般道路に降りると、相変わらず過積載のトラック、三輪トラックでにぎやかだ。工場や住宅、ビルの建設も盛んで、中国経済の成長振りがうかがえる。川沿いの誼園賓館に入る。これまで使ったことのない外賓招待所だ。ひろい応接間付きのスイートルーム。周さんが、飲み物と果物を買ってきてくれた。

明珠園のレストランで、楊ご夫妻、米、宋、沈、劉諸先生と雲君で晚餐。反日デモについて、日本国内では、中国の国内問題に対する不満が形を変えて爆発したとの見方が多いと話すと、皆さんそうではないと言う。やはり、日本政府の歴史認識に若者が怒ったと見ている。愛国教育世代の反発かと聞くと、今の若者に対する愛国教育は、楊先生世代に比べると、はるかに穏健だとのこと。穏健な教育を受けても、小泉政権のやりかたには強烈に反発したことになる。李外相の発言が正当なのか？

デモ隊を抑えられなかったことについては、中国の警察は、デモなど経験していないので、抑え方が分からなかったのだとの見解は面白かった。

食後、日本留学から帰った大学院生達が会いに来てくれて、明珠園でお茶を飲む。やはり、反日デモの原因については、日本との理解差が感じられる。

4月19日

寝坊したので朝の散歩は省略。明珠園で10元の朝食。朝のテレビは、町村外相との会見を報じるが、反日デモには言及しない。今、何が日中関係の論点なのかは、このテレビを観る限りでは分からない。9時過ぎに日本研究院に行って、レジュメのコピーを頼み、メールを使う。10時から第1回の講義。日本経済史の研究史を話す。去年、来なかったのに、院生はほとんど新しい顔。予定した話の半分くらいで時間切れ。

昼食は、Pang副学長のご招待で、大学の西南のレストランに行く。お忙しい中でのご招待に感謝。日本研究院の皆さんと一緒に美味を楽しむ。王振鎖先生もお元気。北京ダックと天津ダックの違いの話題は結局結論は出ず、山東料理だということは皆さん一致。

日本研究院に戻って書庫の家永文庫を見る。さすがに歴史関係の書籍収集は見事。ラベル作業が終わった段階で、これから書架へ配置する作業が終わると中国内でトップクラスのコレクションとして活用されるだろう。

雲君の部屋で、ご持参の龍眼、ライチをご馳走になる。出始めた果物とのことで、南国の味わい。夕食を、北京日本学術研究センターの修士卒業生で天津外国語学院の先生になっている閻美芳さんと一緒にすることにして、ひとまず、部屋に戻る。途中、キャンパス内の新緑を眺め、雪のように舞う柳じょに中国の春を感じる。楊樹が花を付けて綿毛を飛ばしているのだ。アメリカなら綿の木の子葉だろう。

新しく南開大学の副教授に就任された鄭蔚先生が、農業経済で博士になられた方なので、博士課程のテーマに農協の研究を選んだ閻さんの指導をお願いする。帰宅されて、食事も済まされたところ、またお出かけいただき、誼園の部屋でお話をうかがう。閻さんには良い巡り合いになった。

雲君、閻さんと夕食。東北料理の店で、美味しい手羽揚げや鍋を食べる。雲君が海南島から持

ってきたドブコは、日本のそれと似て懐かしい味だ。

日中関係の話では、教科書が1種類しかない中国では、扶桑社の教科書が日本中で教えられると誤解される可能性があるとの指摘は面白い。日本は複数の選択肢がある国であることを理解してもらうことが必要だ。

10時過ぎに帰室。

4月20日

6時起床、西南村に散歩。周恩来さんは相変わらずTEDAビルと対峙しているが、両方とも倒れる気配はない。反日ムードを見て、周総理は中ソ対立のなかで対日賠償を放棄したことを悔やんでいるか？河岸に桃やカイドウの花が美しい。

肉挟み餅を2種（煮込み豚叩き1.7元、豚薄焼き1.4元）と豆乳（0.4元）を買って帰る。豆乳は生だったようでキッチンがないから無駄になった。安上がりな朝食だ。結婚をひかえた周さんに2人の生活費はいくらかかるか聞いたら月500元くらいで大丈夫と言っていた。閻さんはそれは無理と言う。どちらが本当か分からないが、食費だけなら500円でやれるのだろう。

9時、Pang先生にお礼訪問。メールとニュースを読む。反日デモの項目を見ようとしたらフリーズしてしまったのは偶然だろう。10時から第1回の続きの講義。今日は、鄭先生と楊先生が要点通訳してくださる。経済史からだけで歴史が見えるのか？近代と現代の区別は？マルクスの方法以外の歴史分析法は？など鋭い質問に答える。

鄭先生と雲君との昼食には、青山学院からの第1回交換留学生Oさん、山梨学院から日本研究院への留学生Y君を誘う。二人とも中国語と中国生活に慣れてきて成果を挙げている様子。Oさんは第1回交換学生なので先輩の経験が蓄積されていないからパイオニア的苦労はしている。奨学金が未整備なので自費負担が多いのも問題だ。折角新設された制度だからこれから充実すべき点が多い。そのなかで元気に経験を積み重ねているOさんは頼もしい。

2:30に迎えの車で喬・雲両君と南開大学濱海学院を訪問。市内から50分くらいのところにある臨海開発区に去年開学した大学。南開大学の副学長だった王文俊先生が院長。王院長から詳しく新しい学院の構成をうかがう。南開大学が教学の責任を持つ私立大学で、株式組織になっている。南開大学が現物出資で大株主、地区も出資、地区の大企業も出資。今は1年生1500人を迎えたばかり。4年で学生数6000人くらいの大学になる。学生の納付する学費で独立採算の経営を目指している。キャンパスの面積は66万平方メートルと広大。建物はこれからどんどん建て増すのだから資金繰りが大変だろう。学費は1万4000元から2万元、国立大学の3-4倍だ。国家が貸し付け奨学金を出す、親の負担は大きい。でも新入の1年生は屈託がない。庭の大きな池に龍船を浮かべて漕艇練習に興じている。風が強いので、少し心配ではあるが。

このような私立大学が中国全国で300校近くになったとのこと。いずれ格付けが行われるだろう。南開大学の名声を生かした私立大学に成長することを期待しよう。ちなみに、教員は南開大学定年退職者が中心。60~65歳以上の教授陣だと、メリットとデメリットは複雑だ。皆さん天津市街から、送迎バスで通っている。

帰りは王院長とご一緒に、TEDAの電子機器工場地区を通る。隣接する住居区に帰る人々が歩いている。中国で一番成功した開発区の一つがうかがわれる。少し離れたところに一戸建てが並ぶ豪華な住宅区がある。うかがうと、農民の住居とのことでびっくりした。農地を提供した見かえりだ。このように農民を処遇すれば、今流行りの農民暴動など起こらないだろうに。もう少し行くと、金持ちが住む本物の戸建て住宅群があった。

夜は、王院長の招宴。王健宜先生もご一緒に、美味しくも楽しい一時をすごす。六三六杭州飯店で、烏骨鶏のスープから東坡肉まで素晴らしい味。

すこし硬い話題で、日中関係を論じる。楊院長が、ネットで教科書問題などで発言しているが、批判も浴びている。日貨ボイコットについて、楊先生は、歴史の中で、日貨排斥は何回もあったが、長い眼で見ると成功していないと発言した。これがボイコット派から厳しい批判を浴びたようだ。日中関係を論じる時の、楊先生の発言は、影響力が強いだらう。冷静な判断を語る楊先生の見解が、中国の若者に受け入れられて欲しいものだ。

私見も述べる。日中の関係の中で、日本は長い間、中国文化の受容者だった。近代に入って、日本は中国より先進国になって、中国を侵略したが、結局は、抗日戦争では負けた。日中15年戦争の勝者は中国であることを、今の日中両国の若者は理解していない。ここに問題の出発点がある。次に、1949年中国革命は、資本主義日本よりも社会主義中国が歴史の先頭に立ったことを示す。負けた日本は、さらに、社会主義化でも中国に先を越された。この歴史的な先後関係を理解する必要がある。ところが、改革開放で中国が市場経済化し始めたときから、先後関係は、再逆転した。市場経済では日本の方が先進。先を走る日本に、中国人民がさせるのは理解できる。このあせりが、反日運動につながるのではないか？歴史認識問題は、近代の数十年を認識するだけでなく、長い日中交流史を認識することによって、はじめて、日中友好の基盤、共通理解につながると思う。

この私見は、ある程度、分かっていただけだ。来月、王院長が来日されるときに再会を約束してお別れ。

4月21日

6時に正門から出て運河沿いを歩く。公園のように整備されて、桃、山吹、リラ、バラなどが美しい。釣糸をたれる人もいるが、釣れる様子はない。遊覧船の埠頭があるが、人気がないので運航されていない。船が通れるようにわざわざ橋を架け替えたりしたのに無駄な話だった。この市には、見事な老樹や椰子の木があるとおもったら造り物だったりで、ちょっと首を傾げさせる都市開発がある。

西南村で、中国クレープ(0.6元)、卵焼き挟み焼き餅(1.5元)を仕入れて朝食。クレープは美味しくなかった。

9時に研究院へ。メールとニュースをチェック。10時、「経済とは？」を話す。やはりやや分かりにくかったようだ。鄭先生と温先生が通訳。温先生は、神戸学院大学の博士で、地租改正の研究者。フランス映画で主演を演じられそうな才媛。

昼は、宋・李・趙先生と天津百餃子園で、各種餃子を食べる。トウガンの餃子は珍しい。細かく切ったトウガンに味を付けた餃子だが、意外に美味しかった。名物のカニの餃子は、カニのバラ肉が一杯入っていて味が濃い。目方で注文するが1両(=1/10斤)が5個くらいだ。水餃子だが、焼き餃子も出来るらしい。

帰路、中国銀行で1500元引きおろして今夜の軍資金にする。ATM一回の引きだし額は1500元が限度。

日本研究院に戻って、博士課程の院生の論文の相談にのる。日本の不動産産業、エネルギー政策をテーマとする金、尹両院生と話す。日本の土地の商品としての特殊性から考えること、省エネルギー政策からアプローチすることなどをアドバイス。すでに教職にあってさらに博士課程に在籍する劉さんは沖縄返還問題がテーマ。FRUSの活用を奨める。法学院の教授、張さんは特許制度の経済効果がテーマ。人民大学の？先生の本を紹介したが、？先生の名前を思い出せず、後日メールとする。張さんの著書「専利法理論」をいただく。知的所有権法制の専門家だ。夜は、日本研究院の諸先生を招待して会食。楊、米、王、宋、李、趙、劉の古手先生に、温、鄭、喬、張、周の若手が加わって、にぎやかな宴席。故郷に帰られた蒙先生と風邪の劉先生だけが欠席。楊先生の体調が気遣われたが、大きな声で話されるので安心。いろいろな話題に、若手も積極的に自分の意見を述べるあたりは、自由な雰囲気だ。好ましい。

楊先生の日本商品ボイコットへの批判的意見に付いて、妥当な意見だが、さらに、中国の成長が外資に依存していること自体への評価が必要だと述べる。過度の外資依存は、中国の自立性を損なう可能性があることに眼を向けるべきだが、このあたりは、あまり議論されていないから、そろそろ、研究者が取り組むべき時期だろう。10時ころ散会。楽しい夜だった。李先生から著書「中日家族制度比較研究」をいただく。

4月22日

6時前に天津大学村に向けて歩く。南開大学の中央の池では釣人が糸を垂れている。見ていたらクチボソのような小魚が釣れた。体育館の脇を歩いて天津大学構内に入る。この池には釣人はいない。魚ははねていたから、管理が厳しいのだろう。

村の屋台で焼餅2種(1.2元)とペチトマト(1元)を購入。朝食はだんだん安くなる傾向にある。

村の中を見当をつけて南開大学に向かうと、壁に壊れた穴が空いていて学生寮の脇に抜けられた。立派な学生寮で、まだ増築が進んでいる。ドラム缶をゴロゴロ転がしながら建築現場に向かう労働者たちと一緒に学内を歩く。出稼ぎの若者達だが、大学生との格差をどのように感じているのか。

第1回が伸びてしまったので、9時からセミナー開始。第3回の経済政策史の方法を1時間で済ませ、第4回の現代の経済政策—小泉内閣批判—に進む。今日も温先生と鄭先生が通訳。日本研究院の経済系院生で開発区キャンパスで1年を過ごしている2名も参加したが、まだ日本語は出来ないの、通訳は必要だ。今日の話は良く分かってもらえたようだ。

セミナー終了に際して楊先生から感謝のご挨拶と白酒・新茶のお土産をいただく。

昼食は、明珠園で院生を招待しての懇親会。20数名で楽しく過ごす。女性達が、博士号取得に危惧を持っているのには驚いた。結婚相手を見つけ難くなるという。人間には男と女と女博士の3種類があるとのジョークまで飛び出した。中国男性は自分より上位の女性は敬遠するらしい。まあ、日本でもその傾向はあるが。

散会后、王さんの論文について部屋で相談にのる。日本の医療保険制度がテーマなので、史的变化の概略を説明する。一緒にきた何君は、日本文化論をやりたいとのことだが、テーマは未定。中国の将来については明るい見通しを持っているようだが、格差などの問題点は感じている。

ひと風呂浴びて休憩。

6時半、劉先生が迎えに来てくださる。専家楼の食堂で楊・米・王・宋・劉先生と新任の劉岳兵先生との会食。劉先生は、近現代の日本儒学の研究者で、テーマがユニーク。日本に同学者は少ない。近現代の儒者といわれれば、安岡正篤くらいしか思い浮かばないが、他にもいるらしい。

部屋で雲君とおしゃべりして早寝。

4月23日

散歩はやめて朝風呂に入るがお湯がぬるい。愛大会館で朝食(10元)。ご飯やパンもあって日本人向けになっている。

9時、雲君と博物館に出発。運転手は、土曜日だが反日デモはない、もう落ち着いたと言う。反日デモを通して、社会を混乱させようという意図に警戒すべきだとも話し、こんな時期に訪中してくれるのは友好を強めるためだろうと感謝された。中国のタクシー運転手は情報通と聞かすが、なかなかの見解を持っている。

博物館は新築開業したばかりで、半球型の天井全面ガラス張り。前庭の池をはさんで鉄塔と対峙し、太陽と月をかたどる設計と運転手は説明してくれた。設計は日本人だという。古硯室は見事なコレクション。陶器室はいくつか良いものがあるがさほどとは思えない。青銅器など見

たかったが宝物室は閉鎖中。モンゴル美術展は、モンゴル画家の作品を展示し、美意識やテーマ選択に現代モンゴル人の姿が見えて面白かった。書室は、拓本から近代書家まで、かなりな内容だ。

3階は天津の歴史2室で、近代100年の展示室に力が入れている。西欧の侵略、近代化への努力、日清戦争、義和団事件、租界の拡大、5・4運動、中日戦争、革命戦争、新中国誕生までを歴史資料、ジオラマ、人形で説明している。日本の侵略を強調するような展示ではなく、むしろ控えめな表現だ。愛国教育基地の再現ではないようだが、客観的な展示は、それ自体が日本侵略の事実を語っている。

閻さんと天津外国語学院で会う。租界地で西欧風の建築が並ぶなか、天津财经大学に隣接している。学内の外人向け食堂で昼食。ブロッコリー煮物、牛肉の竹ざる挟み揚げ、手羽揚げ、スープ、チャーハン。竹ざるに長ねぎを敷きその上に薄切り肉をならべ、長ねぎで覆って竹ざるを重ね、竹串で留めて揚げた料理は初めてだ。長ねぎの無い部分の肉が竹ざるにくっついて取りにくいけど味は良い。スープはほうれん草の緑のなかに白い素材を流した美しい仕上がり。この食堂のシェフは高級料理店にスカウトされたほどの腕前で、彼が残した味がまだ生きているとのこと。

日本語を学ぶ学生の意識をたずねると、「外国から学ぶことによって外国を越える」という言葉を中国語で示して、このような気持ちで日本語を選ぶ学生が多いとのこと。日本に対する感情は悪いが、手段としての日本語学習には熱心だという。閻さんも、日本語を通して日本文化に触れることの大切さを語っても、日本への反感は根深いことに戸惑っているようだ。日本語人気の高さ日本人気の低さは、奇妙なねじれ現象だ。やはり、歴史問題への対処が出来ていない日本に対しては厳しい眼が向けられる。

閻さんにご馳走になってしまって恐縮。租界地を散歩して帰室、一休みする。

6時前、楊先生ご夫妻がお別れのご挨拶に来てくださる。朝鮮人参をいただく。明日は日本研究院の遠足で早発ちとのこと、5月の来日時のを約してお別れ。

6時、許さんたちが迎えに来てくれて、青葉火鍋店へ。日本留学中にご馳走したことへのお返しのご招待。博士課程の許、王、劉、連、若手教員の喬、張さんたち。赤と白のスープが分かれた鍋の上に焼き鍋も乗っている。火鍋と焼肉の合いの子だ。赤スープは四川のほどは辛くない。牛肉、羊肉、あひらの腸、牛の胃、エビ、野菜など。濃い胡麻だれに香菜、唐辛子を入れて食べる。食談義など楽しむ。連君は天津社会科学院日本研究所に就職とのこと。許さん、張君、連君は博士論文執筆中。10万字以上という規定のところ、皆さん、15万字以上書くようだ。中文は日文より短く書けるから、日本語なら20万字、400字詰め500枚程度か。原稿を急ぐ皆さんと分かれて、王、劉、雲3君と洋菓子を食べに行く。Kieslingというドイツ系の店。パイ焼菓子は良かったが、ケーキはやはり植物油脂でおいしくない。ロシアコーヒーという普通のコーヒーを飲みながら11時過ぎまで話す。15年戦争は、中国が勝ったことをもっと自覚すべきだと話す、やはり連合国の勝利で中国の勝利とは考えていないようだ。国共合作以後の抗日戦線の役割をもっと大きく評価すれば、日本への感情も少し変わるはずなのだが。

4月24日

散歩に出ようとしたら雨がパラ付いてきたので中止。CCTVでは、日中首脳会見のニュースが流れる。侵略謝罪は言葉だけでなく行動でという胡主席の発言をどう受け止めたのかは分からないが、一応、事態の悪化は避けられたかもしれない。

愛大会館で朝食。ヨーグルトをとったら1.5元追加させられた。9時、雲君が来てパッキングを手伝ってくれる。海南島の海産物をお土産にいただく。9時半、張君が迎えに来て、南開大学の車まで送ってくれる。感謝してお別れ。雲君と空港に向かう。案外、道は空いていて1

2時前に着く。機場高速の両側は、桃かカイドウの花が美しい。コーヒーを飲みながらしばらく話し、餃子とピザで昼食。コーヒーは35元と高い。雲君のご馳走になる。お嬢ちゃんは今年6月に中学受験、海口市一番の中学が目標で、将来は北京大学を目指しているとのこと。全寮制で、入ると寄宿舎生活。成長が楽しみだ。

チェックイン、出国審査してから所持品検査で日本研究院のお土産の酒が持ちこみ禁止といわれた。そう言えば、この国は駄目だった。別口でパスポートを預けて外に出て酒箱に紐掛けしてもらい(10元)、追加荷物にする。別口から入って所持品検査をやり直して出発ロビーに。本屋では「裕仁天皇与日華戦争」「日華戦争秘録」のような本が目立つところに並んでいる。今時、売れ筋なのか。

MU271は、出発が1時間遅れる。乗り継ぎ便が延着したためのようなようだ。半分かくらいが日本人で、団体客も多い。2時間40分で成田到着。京成、JR、東上線で11時帰宅。

2005年天津への旅無事終了。